

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より当社及びグループ各社に対し、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第98期(2012年3月期)報告書を株主の皆様にお届けし、2011年度の業績の概要等をご報告させていただきます。

さて、2012年度は、海外においては依然として不透明さは残るものの、東日本大震災の影響により落ち込んでいた日本経済は、ようやく回復の兆しが見え始めました。

そのような経済状況の中、キッツグループでは「真のグローバル企業への進化」をスローガンに、事業の成長と企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様には、引き続きキッツグループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月
代表取締役社長 堀田 康之

エミール・ガレ 《茄子》

1900年 高さ28.6cm

茄子の実をかたどった花器。優雅に長く伸びた青緑色の頸部は茄子のへたを模している。黄白色の胴部には茄子の花と葉が象嵌され、花卉の脈理や葉脈が緻密に彫り込まれている。貴婦人のような凛とした佇まいの《茄子》は、ありふれた野菜に気品ある風情を見出したガレの探究心と創造力の賜物である。

北澤美術館所蔵作品

進化する
KITZ Global Vision 2020

今後の成長戦略の核心に迫る

株式会社キッツ 代表取締役社長

大和証券株式会社 シニアアナリスト

堀田 康之 × 田井 宏介

キッツグループの成長戦略について、株主の皆様により深くご理解いただくため、大和証券株式会社シニアアナリストの田井宏介氏をお招きし、堀田康之社長と対談をしていただきました。田井氏は、機械・造船プラントなどのセクターを担当されているトップ証券アナリストのお一人です。



バルブ事業は円高響き減益

田井：キッツグループの2011年度の業績についてお聞かせください。

堀田：売上高に関しては、前年度比で増収となりました。ここでは当社の基幹事業であるバルブ事業についてお話しします。2011年度は、東日本大震災やタイ洪水の影響により売上が低迷し、半導体製造装置向けが減収となりました。しかし、国内販売では多少の復興需要があり、また海外販売でも北米の石油関連市場や中国向けが好調であったことから、バルブ事業全体では増収となりました。

田井：利益面ではいかがでしょうか？

堀田：営業利益は前年度比で減益となりましたが、主な要因の一つは円高です。当社は海外グループ会社で生産した製品を日本に逆輸入して販売しています。輸入にとって円高は利益面で優位となります。しかし一方、競合メーカーの安価な製品も日本に入ってくるため、厳しい価格競争の中で市場価格が下落し、当社としてもどうしても競合メーカーの製品価格に合わせざるを得なくなり、収益が下がってしまいます。

また、日本から輸出する製品についても、円高の影響で一層価格競争力が低下し、利益圧縮の要因となりました。

その他の一時的な要因として、中東向けに輸出した大口径のバルブによる不採算も大きく影響を受けました。

「プロジェクト統括部」で
お客様のさらなる信頼を得る

田井：キッツグループの今後の成長戦略の中で、大型プラント市場が注力分野として掲げられていると思います。今の堀田社長のお話では、このプラント市場での大口径のバルブが利益圧縮の要因の一つだったということですが、今後、どのような対策を考えているのでしょうか？

堀田：2011年12月に「プロジェクト統括部」を新設しました。今までは、プロジェクト営業部の中に、大型プラント市場の営業担当と数人のエンジニアが在籍していましたが、人数にも限りがありスピード感が出せませんでした。新設したプロジェクト統括部は、営業・技術・設計・購買・生産管理・品質保証を一つに集約した組織で、プラント物件により特化した部門となります。この部門を新設したことで、お客様より物件の引き合いをいただいた段階から製品がお客様のお手元に届くまでの納期・品質・コストなどの管理を、一貫したマネジメント体制のもとに行うことができるようになりました。

田井：部門を新設したことにより、お客様からの評判や評価はいかがでしょう？

堀田：今回、組織体制を整えたことで、お客様には「今までのキッツとは違う。キッツは変わってきた。」という目で見られているのを実感しています。先ほど申し上げた通り、昨年度はうまくいかなかった部分がありましたが、今は信頼を取り戻して、次の引き合いをいただくことができている。今後、さらなる信頼を得ることができるという手ごたえも感じています。

プラントエンジニアリング会社（EPC）の皆様は、一つのプラントを立ち上げる時、できれば、すべてのバルブを日本の

メーカーで揃えたいと考えます。それは日本のメーカーへの信頼感によるものです。EPCの各社様が、日本のメーカーの真摯な姿勢、クオリティーの高さなどを求める限り、私たちとしても何とか信頼を得て、この大型プラント市場で戦っていきたいと思っています。

田井：大型プラント市場は、今後1～3年、5年先を見た時、キッツの成長分野になっていくということですね。

堀田：今後は、この市場で利益を出せる体制にしていきたいと考えています。一つの物件に対して、一度、製品を納入できれば、3年後、5年後の修理や取換えのビジネスにつながっていきます。つまり、リピートオーダーにつながるビジネスとして展開していきたいと思っています。

成長のカギは「品質」に加え、
「価格競争力」と「納期厳守」

田井：2004年、競合メーカーであった東洋バルブ（株）を買収し、キッツグループの土台がしっかりしたと感じています。今後キッツグループがさらに成長していくためには新しいフィールドが必要になってくると思いますが、大型プラント市場は、キッツグループの新しいフィールドになっていくのでしょうか？

堀田：この市場は、キッツグループの新たなフィールドとして成長させていかなければならないと考えています。中でも主力はエネルギー分野になります。エネルギーの動向は日々進化していますが、私たちがこの進化についていけなければ、大型プラント市場で使われる工業用バルブの生産・売上を伸ばしていくことはできず、成長もないと考えています。

田井：「汎用バルブのキッツ」から、今後は「工業用バルブ」にも力を入れていくということですね。この市場で成長していくために必要なことは何でしょうか？

堀田：メーカーである以上、もちろん「品質第一」ですが、これに加え、「価格競争力」と「お客様の要望に応えられる納期を守ること」だと考えています。お客様からの注文が多くなり、その量を当社でこなすことができれば、おのずとコストも下がります。私たちの強みは、海外に生産工場を有していることです。海外で直接部品を調達し、製品を生産することで、他メーカーとの価格競争力に勝てると思っています。そのためには、今まで以上に、海外への生産移管を進めていかなければなりません。

田井：海外市場におけるキッツグループの競合は、海外メーカーになるのでしょうか？

堀田：この市場では海外メーカーと競争になることが圧倒的に多くなりますね。

子会社の工場統合で経営効率向上

田井：私の立場で考えると、キッツグループは国内でこれだけ高いシェアを持っているにも関わらず、製品価格が下落して利益を圧縮してしまうのはとても残念なことです。2012年1月から東洋バルブ（株）を会社分割し、工場をキッツに統合しましたが、このことによるメリットは何でしょうか？



株式会社キッツ 代表取締役社長 堀田 康之

堀田：この1月から東洋バルブ（株）の生産・技術部門を、キッツに統合したのですが、これにより指示命令系統は一本化されました。統合のメリットは、一つは経営効率が上がるということです。また、経営方針や施策のベクトルも合わせられます。さらには生産性を上げるため、長坂・伊那・茅野の3工場の生産アイテムを見直し、お互いの生産移管を始めています。例えば、今までは伊那工場で作った鋳物を茅野工場加工・組立していましたが、今後は伊那工場で一貫して生産するなどの移管を進めていきます。

また販売面で言えば、私たちは、国内の建築設備向け市場ではキッツブランド、東洋ブランド、三吉ブランドの3ブランドを持っていますが、これらのブランド戦略を考えています。3つのブランドの特長を活かし、市場での棲み分けを明確にし、収益の確保を図っていききたいと思います。

海外で「待ち」から「攻め」のM&A

田井：2012年度の成長市場のキーとなる地域はどこでしょうか？

堀田：アメリカの石油関連市場は引き続き好調です。アジアではタイやインドネシアも好調です。中国市場は、GDP7～8%と予測されていますので、まだまだ攻めることができると考えています。また、海外市場には、積極的にM&Aもしかけていきたいと思います。「待ち」から「攻め」のM&Aへ戦略を変更し、2009年に買収したドイツのPerrin社のように、キッツグループ内でシナジー効果が出せるようなM&Aを展開していきます。

さらに、製品で言えば、現在成長著しいアジアのミドルマーケットに投入できるバルブの開発・生産を進めています。

田井：これから1～2年は、キッツグループにとってのターニングポイントになりそうですね。大型プラント市場、ミドルマーケットのバルブ、国内の販売戦略と、変化の年になるものと思います。とても楽しみです。

キッツグループのさらなる成長、飛躍を期待しております。今日は貴重なお話をありがとうございました。

堀田：こちらこそ、ありがとうございました。



田井 宏介氏
(たい ひろすけ)

● Profile
大和証券株式会社 企業調査部
シニアアナリスト(機械・造船プラント・産エレ 担当)

略歴：
1995年に早稲田大学商学部卒業後、大和総研に入社。店頭・小型企業(エレクトロニクスセクター)、タイヤ・自動車販売セクターの担当を経て、2000年より機械・造船プラントセクターを担当。2009年、グループ組織変更にもない大和証券SMBC 金融証券研究所へ転籍。2012年、統合にもない大和証券に社名変更、現在に至る。2012年3月発表の日経ヴェリタスアナリストランキングでは造船・プラントセクターで第2位、機械セクターでは第4位にランク。またInstitutional Investorでは、造船・プラントセクターでは第1位、機械セクターでは第4位にランク。

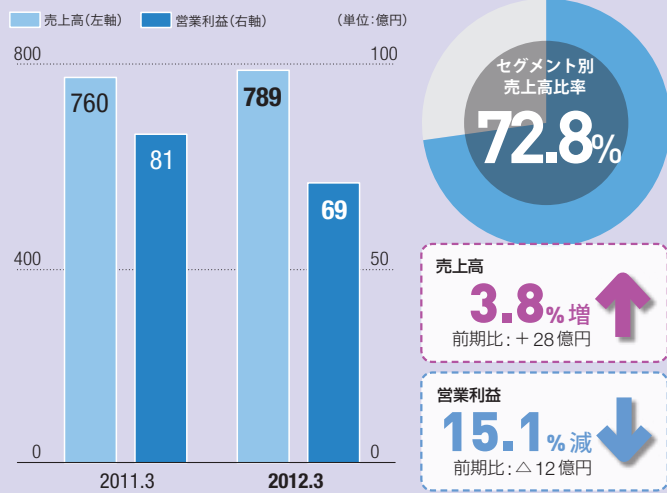
業績概要

● 当期 (2011年4月～2012年3月) の連結決算 ●

当期は、東日本大震災や福島原発事故、タイの大洪水、欧州債務問題、歴史的な円高など厳しい経済環境下での事業活動となりました。このような状況の中、連結売上高は、国内外とも増収を確保し、1,084億46百万円（前期比23億87百万円増、2.3%の増収）となりました。一方、連結営業利益は、価格競争による販売価格の下落や円高等による海外向け販売製品の収益低迷などから46億38百万円（前期比17億3百万円減、26.9%の減益）となりました。連結経常利益は、43億88百万円（前期比15億41百万円減、26.0%の減益）、当期純利益は、24億80百万円（前期比5億82百万円減、19.0%の減益）となりました。

● 当期のセグメント別売上高・営業利益 ●

バルブ事業



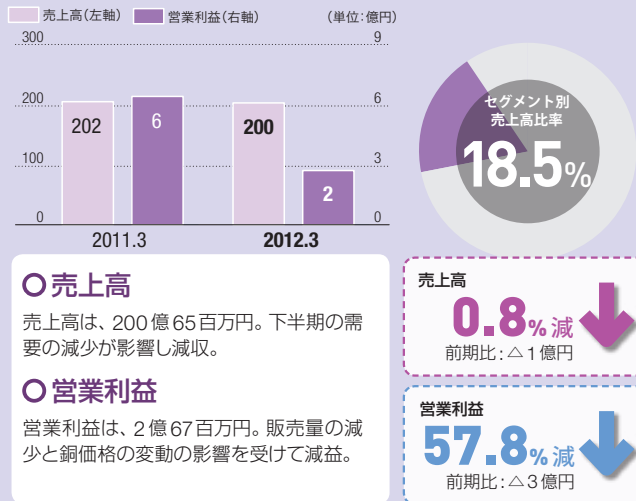
○ 売上高

売上高は、789億76百万円（国内550億20百万円、海外239億55百万円）。国内は、半導体製造装置向けが需要減で減収、一方、主力の建築設備向けは、東日本大震災の復興ともなう仮需要の影響により一旦減少した需要が回復。石油精製・石油化学向けなどの工業用バルブは増収。海外は、中国・アセアン地域での建築設備向けや北米の石油精製、石油化学向けが伸びて増収。

○ 営業利益

営業利益は、69億13百万円。国内外の販売価格の下落、中東向けの大型プラント物件の採算の悪化等により減益。

伸銅品事業



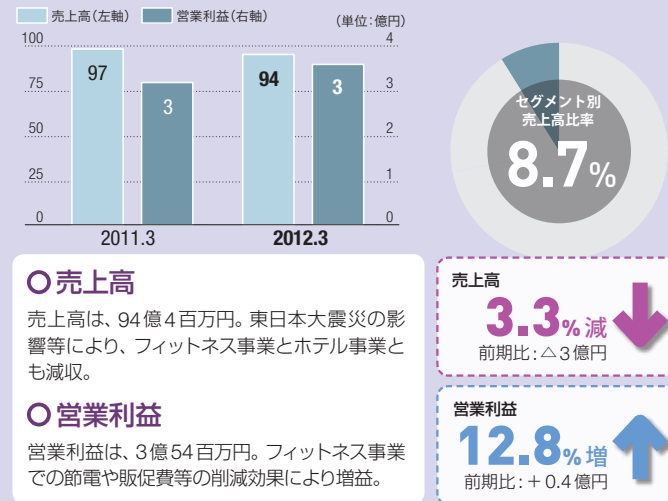
○ 売上高

売上高は、200億65百万円。下半期の需要の減少が影響し減収。

○ 営業利益

営業利益は、2億67百万円。販売量の減少と銅価格の変動の影響を受けて減益。

その他



○ 売上高

売上高は、94億4百万円。東日本大震災の影響等により、フィットネス事業とホテル事業とも減収。

○ 営業利益

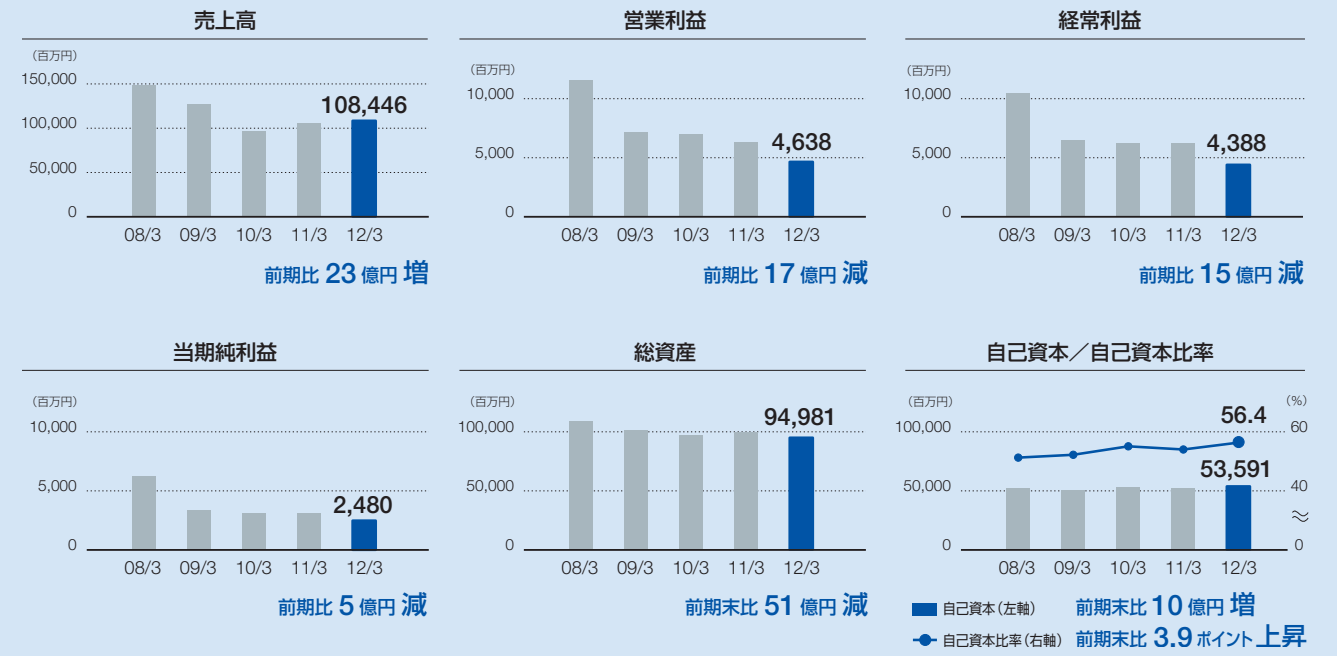
営業利益は、3億54百万円。フィットネス事業での節電や販促費等の削減効果により増益。

● 今期 (2012年4月～2013年3月) の経営計画 ●

○ 連結 (百万円)		○ 単体 (百万円)		○ セグメント別 (百万円)	
売上高	112,000	売上高	64,000	バルブ事業	84,700
営業利益	6,600	営業利益	3,500	伸銅品事業	18,200
経常利益	6,200	経常利益	3,700	その他	9,100
当期純利益	3,900	当期純利益	2,400	調整額	—
				計	112,000
				営業利益	6,600

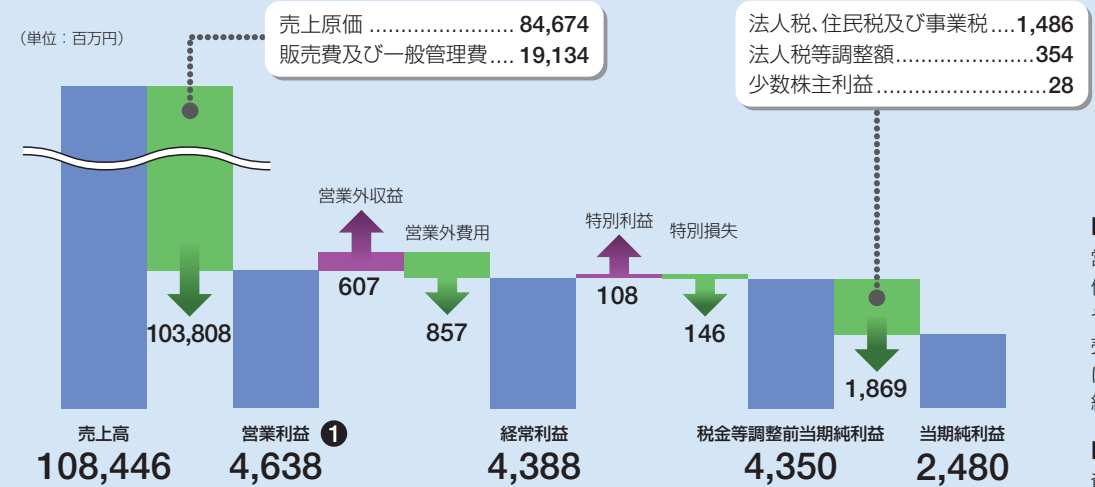
財務データ

● 主要連結財務指標 ●



● 連結損益計算書の概要 ●

当期 (2011年4月1日～2012年3月31日)



● 連結貸借対照表の概要 ●

前期末 (2011年3月31日)		当期末 (2012年3月31日)	
資産合計	100,138	資産合計 ②	94,981
現金及び預金	13,108	現金及び預金	5,674
流動資産	52,036	流動資産	47,247
有形固定資産	35,027	有形固定資産	34,767
無形固定資産	2,172	無形固定資産	2,404
投資その他の資産	10,901	投資その他の資産	10,561
負債純資産合計	100,138	負債純資産合計	94,981
流動負債	26,521	流動負債	20,182
固定負債	20,184	固定負債	20,309
株主資本	55,622	株主資本	57,283
その他の包括利益累計額	△3,098	その他の包括利益累計額	△3,692
少数株主持分	908	少数株主持分	898

Point ① 営業利益については、需要が低迷する中、価格競争の激化や円高の影響にもない販売価格が下落したことなどにより、前期比26.9%減の約46億円となりました。

Point ② 資産については、第1回無担保公募社債60億円の償還及び法人税等の納付により現預金が減少したことなどにより、前期末に比べ約51億円減少いたしました。

Point ③ 負債についても、第1回無担保公募社債の償還や法人税等の納付などにより、前期末に比べ約62億円減少いたしました。

Point ④ 純資産については、配当金の支払による利益剰余金の減少がありました。当期純利益が約24億円となったことなどにより、前期末に比べ約10億円増加いたしました。

会社概要

○ 商号	株式会社キッツ	○ 資本金	21,207,084,670円
○ 本社	〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1 TEL (043) 299-0111	○ 設立年月日	1951年1月26日
○ 代表取締役社長	堀田 康之	○ 従業員数(単体)	1,200人(2012年3月31日現在)

ネットワーク



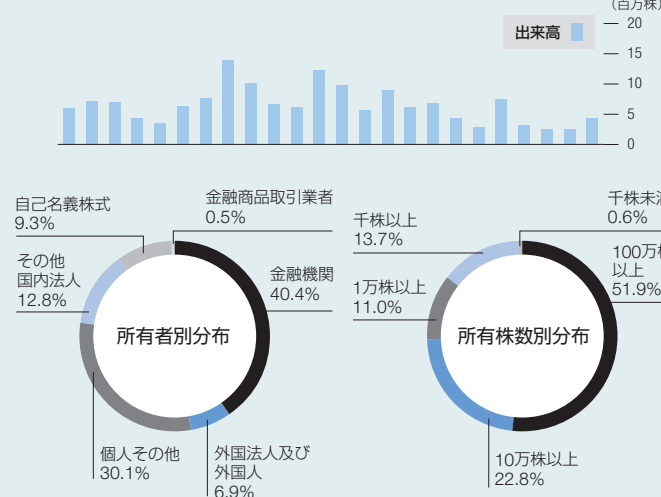
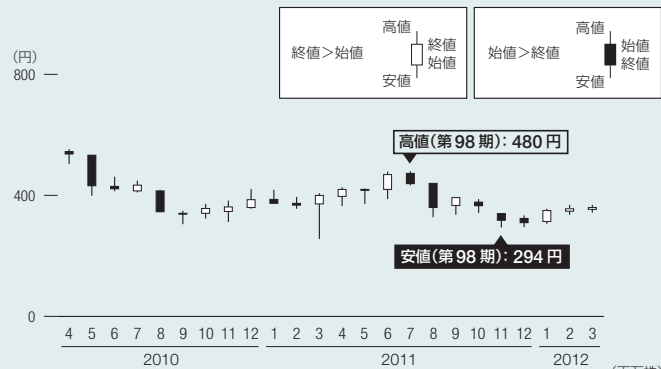
株式の状況

- 発行可能株式総数 400,000,000株
 - 発行済株式の総数 109,222,790株
- (注) 上記の株式の総数には、当社が2012年3月31日現在に保有する自己株式11,173,721株を含んでおりません。
- 株主数 10,780名
 - 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	16,708	15.30
資産管理サービス信託銀行株式会社	5,774	5.29
日本生命保険相互会社	4,781	4.38
住友生命保険相互会社	3,652	3.34
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.12
北沢会持株会	3,188	2.92
キッツ取引先持株会	2,855	2.61
株式会社みずほコーポレート銀行	2,553	2.34
株式会社三井住友銀行	2,553	2.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,329	2.13

- (注) 1. 当社は、2012年3月31日現在、自己株式11,173千株を保有しており、上記大株主から除外しております。
2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。
- 日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 16,708千株
 - 資産管理サービス信託銀行(株) 5,774千株
 - 日本マスタートラスト信託銀行(株) 2,329千株
3. 住友生命保険(相)の持株数には、変額口262千株及び特別勘定口629千株を含んでおります。
4. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式11,173,721株を除いて計算しております。

株価チャート



キッツグループの製品が使われる分野

○ ビル設備 <ul style="list-style-type: none"> ●青銅・黄銅製バルブ ●ダクタイル鋳鉄製バルブ ●空気弁 <p>アルミ製バタフライバルブ</p>	○ 下水処理設備 <ul style="list-style-type: none"> ●水処理施設用バルブ ●鋳鉄製バルブ <p>下水道用バルブ</p>	○ 給水設備 <ul style="list-style-type: none"> ●給水装置製品 ●黄銅棒製品 <p>給水装置製品</p>
○ 工場設備 <ul style="list-style-type: none"> ●特殊ステンレス鋼及び高ニッケル合金バルブ ●ハイパフォーマンスボールバルブ ●ボールバルブ <p>ステンレス鋼製3方2面シートボールバルブ</p>	○ 半導体製造設備 <ul style="list-style-type: none"> ●ダイヤフラムバルブ ●ペローズバルブ ●薬液中空糸膜フィルタ <p>半導体製造装置用バルブ・継手</p>	○ ガスパイプライン <ul style="list-style-type: none"> ●全溶接形鍛鋼製ボールバルブ <p>全溶接形鍛鋼製ボールバルブ</p>

経営トピックス

キッツグループの水関連技術をシンガポール国際水週間イベントに初出展!

KITZ Water Solutions

このたびキッツグループでは、グループ各社の水関連技術や製品、サービスを結集した総合的な情報発信基地として、「KITZ Water Solutions」という新しいマーケティング活動を開始いたします。この活動の一環として、来る7月2日~4日、シンガポールで開催されるSingapore International Water Week 2012 (SIWW: シンガポール国際水週間イベント)に初参加をし、技術発表ならびに大型ブースによる展示を行います。SIWWは、水関連技術と水ビジネスの国際的な情報交換の場として世界最大規模を誇る見本市です。

今年度キッツグループでは、ドイツで開催予定のACHEMA2012(国際化学・環境保護・バイオテクノロジー専門見本市)やValve World Expo & Conference 2012(バルブ専門の国際見本市)への出展を予定しておりますが、これらの出展とともに、このSIWWへの初参加は、私たちの技術や製品を海外でPRしていくよい機会であると考えております。

キッツ及びキッツグループの歴史は、日本の高度成長に合わせて発展した水関連事業とともにあります。その技術は、「水を流す・止める」という役割から、「流れを制御する」ことを経て、「水を浄化する」へ、そして今では地下水や川の水から飲料水や純水を作り出す「造水事業」の技術にまで進化しております。

「KITZ Water Solutions」のコンセプトは、「Safe & Save. Japan quality」。お客様が必要とされる「水」の用途に応じて、「水質」「水量」「コスト」を最適化するソリューションをご提案してまいります。またお客様の要望に合わせた製品開発や、高度な素材技術、サービスのご提供も視野に入れております。

キッツグループでは、このような「KITZ Water Solutions」によるマーケティング活動を通じて、世界の多くの方々が抱えている「水」に関するお悩みやご要望をダイレクトに伺いながら事業の新たな可能性を探ってまいります。創業以来培ってきたバルブ技術を基礎とした信頼性の高い水関連技術、製品、サービスのご提供を通じて、今後ますます社会に貢献してまいります。

Singapore International Water Week 2012 / Water Expo

会期: 2012年7月2日(月)~7月4日(水)
開催地: シンガポール
会場: Sands Expo & Convention Center (Hotel Marina Bay Sands)

「KITZ Water Solutions」については、以下のHPをご覧ください(7月1日開設予定)。
HPアドレス: <http://www.kitzwatersolutions.com>

キッツの今後がわかるQ&A

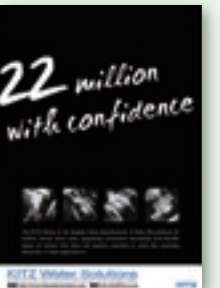
同封の第98回定時株主総会招集ご通知5ページから掲載の「企業集団が対処すべき課題」についての、よくあるご質問にお答えします。

Q 海外市場で、新たにシンガポールの販売会社を設立したのはなぜですか?

A 2011年10月、シンガポールに販売子会社「KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.」を設立しました。キッツグループでは、海外市場の重点エリアとして3極(アジア・パシフィック、米州、欧州)と2拠点(中国、インド)をターゲットとし、それぞれの地域でのシェア拡大を目指しております。今後、高い成長が期待できるアジア・パシフィック地域においては、今回設立した販売会社を通して、より現場に密着した強固な販売基盤を構築してまいります。

Q PLM(プロダクト・ライフサイクル・マネジメント)システムへの取り組みについて教えてください。

A PLMは、工業製品(キッツではバルブなど)開発の企画段階から設計、生産、さらに出荷後のユーザーサポートなどすべての過程において発生する文書や技術情報等を一元的に管理する手法のことです。現在、キッツでは、設計図面・開発資料・納入品図面などの様々な技術情報を、それぞれ独立したシステムで管理しています。今後はこれらのシステムやそれにとりま業務を見直しキッツグループ全体で新たなPLMシステムを導入することで、開発や設計の効率向上、納期短縮が図れるような環境の構築を目指してまいります。



「KITZ Water Solutions」イメージポスター

株主の皆様へのお知らせ

期末配当金のお支払について

2012年5月31日開催の当社取締役会におきまして、第98期の期末配当金について、以下の通り決議されております。

期末配当金：1株につき 金4円

(中間配当金として2011年12月に1株につき3.5円の配当を実施しておりますので、年間の配当金は1株につき7.5円となります)

効力発生日ならびに支払開始日：2012年6月13日(水)

同封の「第98期期末配当金領収書」により、払渡しの期間(2012年6月13日～7月17日)内に最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、銀行等口座振込をご指定の方には、「第98期期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」の記載をご確認いただけますよう、お願い申し上げます。

株主優待のご案内

キッツでは年2回、次の優待を実施しております。

3月末現在の株主様

① 1,000株以上：「株主様ご優待案内」冊子

ホテル紅や宿泊割引券、フィットネスクラブ施設体験・各種割引券、高性能浄水器・各種交換カートリッジの割引販売、北澤美術館招待券(4枚)

② 2,000株以上：①+オリジナルクオカード

(保有株数)	(優待内容)
2,000株以上	1,000円券1枚
3,000株以上	2,000円券1枚
4,000株以上	3,000円券1枚

※7月上旬の発送予定

クオカードは、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、ファミリーレストランなど、全国約45,000の加盟店で利用可能な、現在、最も汎用性の高いプリペイドカードです。

9月末現在で1,000株以上ご所有の株主様

北澤美術館カレンダー

※12月上旬の発送予定



北澤美術館

キッツは「北澤美術館」の活動を支援することを通して、学術・芸術の振興と文化の向上に貢献しております。北澤美術館では、19世紀末フランスのアール・ヌーヴォー期の世界第一級のガラス工芸品と現代日本画を中心に優れた作品を常時展示しており、国内外を問わず高い評価をいただいております。年間を通じて様々な特別展を開催し、多くの皆様のご来館をお待ちしております。

株主の皆様のご意見が経営に反映されます

株主総会で提案された議案について、株主の皆様にご賛成や反対の意思表示をしていただくことを「議決権の行使」といいます。株主の皆様には100株につき1個の議決権をご所有いただいております。ご所有の株主様がこの権利を行使することは、当社の経営に参画していただくこととなります。議決権を行使いただく方法は、以下の通りです。

① 株主総会にご出席いただき、提案された議案に対する賛否を表明していただきます。

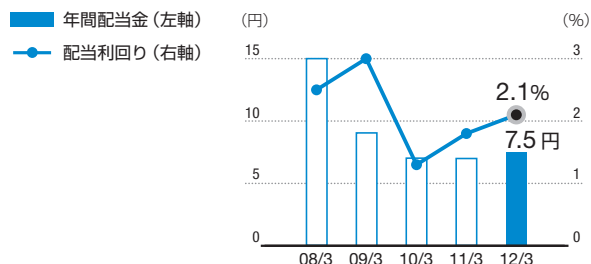
※株主総会については、同封の「第98回定時株主総会招集ご通知」をご参照ください。

② 株主総会にご出席いただくことができない場合は、同封の「議決権行使書」にて提案された議案に対する賛否を表明していただきます。

株主の皆様への配当方針

キッツは、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題として認識し、配当の継続性、安定性に留意しながら、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

年間配当金・配当利回り



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
公告掲載方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載 URL(http://www.kitz.co.jp)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。